

SHOW-HEYシネマルーム

★★★

ラスト・ブラッド (Blood the Last Vampire)

2009年・香港、フランス映画
配給/アスミック・エース・91分

2009(平成21)年4月13日鑑賞 アスミック・エース社内DVD試写

Data

監督：クリス・ナオン
原作：プロダクション I. G 『BLOOD THE LAST VAMPIRE』
出演：チョン・ジヒョン/小雪/アリソン・ミラー/リーアム・カニンガム/JJフェイルド/コリン・サーモン/倉田保昭

👁️👁️ みどころ

西欧がバンパイアなら、日本は鬼。韓国美女チョン・ジヒョン演ずるサヤが、バツバツとオニ共を斬り捨てるのは一体何のため？ 番は少ないが、存在感タップリにオニゲンを演ずる小雪は、サヤの出生の秘密にいかなる関係？ それ为本作の究極のテーマだから、その点をじっくりと。ところであなたは、太腿露わなマント姿の上戸彩と、セーラー服に日本刀姿のチョン・ジヒョンと、どちらが好き？

■□■西欧ではバンパイア、日本では鬼■□■

『アンダーワールド：エボリューション』(06年)などでわかるように、西欧では昔からバンパイアと人間が戦ってきた(『シネマルーム10』82頁参照)が、『トワイライト/初恋』(08年)では一転して人間とバンパイアが恋愛関係に？

西欧がバンパイアなら、日本は鬼。おとぎ話の時代における桃太郎の鬼退治から、平安時代(西暦990年頃)の坂田金時ら四天王による鬼(酒吞童子)退治まで日本では鬼伝説がいっぱい。しかして本作が描くのは、16世紀戦乱の時代に大量に流された人間の血によって力を得た鬼と、現代に生きる人間との400年越しの宿命の対決。

そんな本作の主人公は、『猟奇的な彼女』(01年)や『僕の彼女を紹介します』(04年)などで日本にもおなじみの美女チョン・ジヒョンが演ずるサヤ。サヤは父を殺したオニゲン(小雪)への復讐だけに生きてきた少女だが、セーラー服に日本刀という姿でオニゲンに挑むのが本作の特徴。ワイヤーアクションとCGをふんだんに活用してチョン・ジヒョンがアクションに挑む本作では、さてどんなヒロイン像が？ まずは、そこらあたりに注目！

■□■太股露わにマント姿VSセーラー服に日本刀■□■

『あずみ2 Death or Love』(04年)では、上戸彩が太股露わに黒いマントを翻し、血しぶきを浴びながら斬って斬って斬りまくるというチャンバラアクションに挑戦したが、それが意外にカッコ良く、私の採点は星4つだった(『シネマルーム7』362頁参照)。それに対し今、サヤが生きている時代は1970年だから、サヤの類まれな能力を鬼退治に活用しているオニと戦う秘密組織カウンスルのリーダー、マイケル(リアム・カニングム)はサヤをセーラー服姿にして基地内の高校に潜入させたが、それはなぜ?高校内で、どことなく怪しげな高校教師ミスター・パウエル(コリン・サーモン)から命を狙われていたマッキー将軍の娘アリス(アリソン・ミラー)の命をサヤが救ったことにより、サヤとアリスの間には真の友情が芽生えていくことに。しかし、サヤがアリスを襲ったオニ達を下派手に斬り殺したことによって、サヤはまた一步宿敵オニゲンに近づいていくことになったから、皮肉なものだ。

本作では、セーラー服姿のチョン・ジヒョンがワイヤー満載のアクションに挑戦し、オニ共をバツバツと斬り捨てていくのだが、そのカッコ良さはあずみの方が上?やっぱリアリティがなければ・・・。

■□■倉田保昭はさすがにいいアクションを■□■

オニゲンによってサヤの父親が殺された後、その忠実な部下として幼いサヤの身を隠し、サヤに剣術と共に人間の心を教えた「育ての親」が倉田保昭演ずるカトウ。倉田保昭は「和製ドラゴン」の異名をもつアクション俳優の第一人者だ。

サヤによる鬼退治が活発化したことによって、オニゲンに隠れ家を発見されたから大変。そこでカトウは危険の迫るサヤを逃がし、1人でオニ共に立ち向かう悲痛な決心を固めたが、さて彼の運命は如何に?1人敢然と強力なオニ軍団に立ち向かうカトウのアクションはさすがに見モノだから、それをじっくりと。

■□■サヤの出生の秘密とは?■□■

日本を代表するアジアンビューティーの小雪が何と、オニババならぬ「オニゲン」を演ずると聞いて、こりゃ観なければと思ったが、プロデューサーのビル・コンとクリス・ナオン監督はさすがに小雪の演出には気を遣っている。オニゲンはオニ共の総元締めであると共にサヤの父親を殺した最強かつ最凶のオニだが、その美しさ、優雅さはさすが。しかし、やっとな願のオニゲンとの対決が実現した今、オニゲンからサヤに明かされた思いがけない出生の秘密とは?

ネタバレ覚悟で言えばそれは、サヤは父親とオニゲンとの間に生まれた子供だというこ

と。つまり、サヤは人間とオニとのハーフだという、ほぼあなたの予想どおり(?)のものだ。そこでオニゲンがサヤに言うのは、「いくらオニを殺しても人間に近づくことはできない」ということだが、その言葉の正しさは? 他方、アリスがサヤに対して「これだけは忘れないと約束して」と伝えたメッセージは、「自分を大切に。あなたは心をもった人間よ」ということだが、その言葉の正しさは?

■宿命の決着は? 決着後のニッポン国は? ■

さあ、やっとめぐってきたオニゲンとの宿命の対決の中、そんな出生の秘密を知ったサヤは、オニゲンとの間でいかなる決着を?

『トワイライト/初恋』はバンパイアと人間との共存、恋愛がテーマだったが、『ラスト・ブラッド』は400年以上続いてきた鬼と人間との決着がテーマだから、きっと中途半端なままでは終らないはずだ。また、サヤとオニゲンとの決着がつくということは、すなわち人間とオニとの決着がつくということ。するとさらに、サヤとオニゲンとの対決を終えた、1970年以降のニッポン国は?

2009 (平成21) 年4月14日記



『ラスト・ブラッド』 価格 ¥1,800+税
発売元 アスマック
販売元 株式会社KADOKAWA 角川書店